安倍雇用破壊をゆるさない 10.22院内集会

十月二十二日十一時三十分より「安倍雇用破壊をゆるさない10・22院内集会」が衆議員第二議員会館多目的会議室で開催された。全国港湾からは、本部、単組を中心に十名ほどが参加した。

院内集会は、雇用共同アクションに参加する各団体より一一〇名あまりの参加者で会場は埋まった。

国会議員の小池晃参議院議員（日本共産党）、相原久美子参議院議員（民主党）、吉田忠智参議院議員（社民党党首）、福島みずほ参議院議員（社民党）、阿部知子衆議院議員（無所属）から、安倍政権の労働法制改悪の第一弾である労働者派遣法「改正」法案が今臨時国会に上程された。派遣業界と派遣先企業の使い勝手をよくし「正社員ゼロ・生涯派遣」法案として厳しく批判し、廃案をめざす必要があり、共に頑張ろうとの激励の挨拶を受けた。

政府の提案する「雇用改革」は、労働法制の規制緩和をさらに進める真逆の政策で、雇用・労働条件のさらなる劣化が進み、消費も低迷して、日本は「世界で一番企業が投資したくない国」になりかねない。

安倍政権は、労働時間法制・裁量労働制（時間ではなく成果で評価される）、限定正社員制度（解雇しやすく低賃金）等々を、もくろんでいます。このような「アベノ雇用破壊」を許さない運動を広めていく事が求められています。

秋空のもとかろやかに！
―第二三回全横浜大運動会―

「よーい、ドン」とスタートの音とともに威勢よく走る子供たち、まわりで声援の声が高まる。

今年で第二十三回を迎える横浜港大運動会が十一月二日、大黒ふ頭グランドで開催されました。

昨日までの雨もウソのように晴れあがった天気の中、九〇〇名以上の参加があり、港ぐるみ、家族ぐるみの親睦と交流の場となりました。開会は実行委員長の柏木公廣氏のあいさつで始まり、横浜港運協会・藤木会長、横浜市港湾局・伊東局長よりあいさつを頂きました。

昨年、対抗リレーで優勝した検定地連の永島さん親子が「正々堂々がんばります」と声を合わせて選手宣誓を行いました。準備体操の後、いよいよ楽しい競技のはじまりです。幼児・児童の「徒競争」からはじまり、「パン喰い競争」ではお目当てのメロンパンをめがけて走り、最後の最後まで手を一切使わず大きな口を開けパンに喰らいついていました。大人も子供も待ちにまった「ウナギ掴み競争」では多数の参加者が生きたウナギを素手で掴みゴールを目指しました。必死に逃げようとするウナギを相手に悪戦苦闘の連続で、中には生まれて初めて生きたままのウナギを手にする人もいて、大騒ぎする場面もありました。小学生・女子・男子の長距離走のあと楽しい昼食が始まり、それぞれの単組ごとでバーベキューや焼きそばが準備され、用意されたお弁当を食べにぎやかに過ごしました。

午後の競技では幼児・児童の「玉入れ」で、お父さんが幼児を肩車し、児童は両手に玉をしっかり握り、カゴをめがけて空に向かって投げ入れていました。

最終競技の職種別対抗リレーでは、抜きつ抜かれつの熱戦で一周ごとに順位が入れ替わり、最後に優勝したのは「全港湾・横浜支部」のチームでした。

すべての種目が終了した後は、抽選会を行い、各自が持っているプログラムの抽選番号をじっと見つめ、呼ばれる番号に一喜一憂していました。それぞれが沢山の賞品を抱えながら今年の運動会は幕を閉じました。

（奥村副運営委員長）

藤木インスペクター日誌 ～間が悪い編～

「間が悪い」とよく言いますが、船が停泊しているときは、いろいろな人（PSC査察官、船舶代理店の人等々）が来るのでそうゆう場面によく出くわします。

先日、訪船した船でタラップを上がった瞬間、中国人の船員さんと思い込んでいた私は（ちょっと浅黒いな）と思いましたが「ITF（だけど）」と告げると「船長？」「&＊？……」と言われて、何を言ったのか、数回聞き直しました。

すると「いま、PSCが来ていて書類をチェックしている」とのこと。（とりあえず、船長室まで行ってみるか）と思い行ってみました。

想像した通り、船長はPSCとのやり取りで忙しそうだったので「船長、忙しいようなのでまた今度」と言い残して下船したのです。

そして次の船行くことにしました。

その船は、着岸したばかりのようでタラップ下にネットを装着しているところだったので終了するまで岸壁で待つことにしました。

ほぼ終了したようなのでタラップを上がっていくとチーフ・オフィサーが事務所に連れて行ってくれました、その時チーフ・オフィサーが「着岸したばかりで昼めし食べてないからおなかペコペコ」と言ったので（おそらく船長も同じなんだろうな）思いながら事務所へ行くとその通りでした。

船長は、船舶代理店の人とやり取りをしていたのでそのまま待っていました。

船長は、そのやり取りを終えるとすぐに私のところへ来たのですが（申し訳ないな）と思いながら「10分だけ時間をください」とお願いして終了しました。

一日、間が悪いという日でした。

休憩
「東北を歩く㊤」

■東北を歩く…宮沢賢治「雨ニモマケズ」㊤

二〇一一年三月の東日本大震災…地震、大津波による犠牲者は一万八千人以上に…。

東北地方は、これまで何度も大きな地震と津波にみまわれています。

明治三陸沖地震（一八九六年六月）では二万一千人以上、昭和三陸沖地震（一九三三年三月）では三千人以上が犠牲になりました。

岩手県出身の童話作家宮沢賢治は、明治三陸沖地震の年に生まれ、昭和三陸沖地震の年に亡くなりました。

宮沢賢治は岩手県花巻市で生まれ、質屋と舌着商を業とするめぐまれた家に育ち、小さい時から大変な秀才だったと伝えられています。

東日本大震災後に、被災地と彼の生まれ育った花巻周辺を歩きました。

よく賢治が一人で登ったといわれている岩手山や小岩井農場にも…。

彼の代表的な童話「注文の多い料理店」は題名からして不思議です。何か〝料理作法〟のあるお店の事かなと…。

「宮沢賢治記念館」（花巻市矢沢）近くにある〝注文の多い料理店「山猫軒」〟の玄関には、〝どなたもどうかお入りください。決してご遠慮はありません〟〝ことに肥ったお方や若いお方は、大歓迎いたします〟〝当軒は注文の多い料理店ですからどうかそこはご承知ください〟と「猫の看板」がかかっていましたが、ふつうのレストランでした…。

この童話は賢治の自費による初出版で、当時は無名だったため書店では料理本として並べられたこともあったようです。

この童話の物語に入っていくと、子供心に帰って心が和みます。

賢治は、この童話集のまえがきで、「わたしたちは、氷砂糖をほしいくらいもたないでも、きれいにすきとおった風をたべ、ももいろのうつくしい朝の日光をのむことができます。」（中略）「わたくしは、これらのちいさなものがたりの幾きれかが、おしまい、あなたのすきとおったほんたうのたべものになることを、どんなにねがうかわかりません。」と、読者に語りかけています。この時代に生きた賢治の思いが少し解るような気がします。（㊦に続く。）

保障のことなら
全労済
全国労働者共済生活協同組合連合会